婦人と新社會

山田わか主筆

拾一月號

新マルサス主義を否定す

肯定論者の主張——移民問題と避妊——勞働問題と避妊——優生學と避妊——結婚問題と避妊——婦人の解放と避姙——個人本位主義と家族本位主義——個人を社會の單位と見るのが現代の流行——個人本位と家族本位の混亂——民衆は家を重んじない——家族本位の人が重要な位置を占める——家族本位の衰廢が國力の衰頽——勞働者の敵は成金資本家——人類の恩人

ミル著『婦人の服從』の梗概

米國婦人は參政權をもつて何をする

社會主義に附いて

原田琴子さんのこと

秋風をきゝつゝ

毎月一回一日發行　第九號　大正九年拾壹月一日發行

東京婦人と新社會社

冬のお支度は

最新流行品揃ひの三越

『日本の流行は三越より』と云はれて居ります通に、本年は例年に比して一層嶄新な品が、潤澤に取揃へてあります、冬のお支度はもとより お買物は三越が安心で低廉であります

三越の十一月

日本自由畫壇繪畫展覽會（引續き三日迄）
御召と小紋類陳列會（一日より六日迄）
婦人世界主催女流日本畫展覽會（七日より十一日迄）
挿花器陳列（十一日より十五日迄）
國民美術協會小品展覽會（十五日より二十日迄）
南紀美術展覽會（廿三日より廿八日迄）

十一月の定休日

十日
二十五日

三越呉服店

◀東京駿河町▶

婦人と新社會

It's not too late to seek a newar world:

. . . . . .

Tho' much is taken, much abides: and tho'
We are not now the strength which in old days
Moved earth and heaven, that which we are, we are;
One equal temper of heroic hearts;
Made weak by time and rule, but strong in will
To strive, to seek, to find and not yield.

——Tennyson——

より新しい世界を探すに遲すぎると云ふことはない。

× × × ×

たとへ、多くのものが取られてゐるけれども、まだ、多くが殘つてゐる。

そして、我々は、昔、天と地とを動かした人の力のやうな力は持たないが

併し、我々もそれ等の英雄のやうな氣質と等しい氣質を持つてゐる。時と規則によつて弱くはされてゐるが併し、努力し、求め、見出し、そして、一歩も讓らない意志に於ては強い。

ーテニソンー

拾一月號

新マルサス主義を否定す

肯定論者の主張

新マルサス主義とは何であるかと云ふことは既でに皆樣も御承知のことゝは思ひますが、私が私の考へをお話し致しますす順序として此の新マルサス主義の實行を肯定して居られる方達の其の肯定なさる理由を大體に於て先づ擧げて見ようと思ひます。

寡讀な私の目に觸れましましたものゝ範圍內に止まるものではありますが、此の主義の肯定論者の意見は、一體、世の中には人間が多過ぎる、人は子供を生み過ぎる。其れがあらゆる害悪の源であると云ふのであります。子供を生み過ぎて、人間が多過ぎる結果は、

第一、人口過剩となり、國民が外國へあふれ出て行くために移民問題となり、日米關

係のやうな面倒な問題が起つて來ると云ひます。

第二、勞働者が多過ぎるため、勞働者間の競爭が烈しく、其のために勞働者の賃銀は安く、資本家に利用される許りで、勞働者は益々困窮すると申ます。

第三、優種學上の見地から、不良性を子孫に殘さないための工夫だと云はれてゐます。

第四、相當な年輩になつても經濟上の事情のために結婚の出來ない人の不幸を救ふため、

第五、婦人の重荷を輕くし、婦人を解放するためだと云ふのであります。

此の外にもまだ理由があるかも知れませんが、先づ、大體に於て、以上擧げて參りました五ッの理由にいろ／＼な裝飾的な議論や言葉が巧に附加されて、そして、新マルサス主義の實行が正しいものであると主張されて居るのだと私は思ひます。

誰でも人口の過多を思ふ時、殊に無智無學な、絕へず社會に煩ひを及ぼすような人間がどん／＼殖へて行くことや、靑年の生理的の煩悶や、又、精神的に或ひは生理的

に缺陷ある人が不完全な子を持つた悲しみや、又は、多產のための母態の苦しみやを見た時には、確かに新マルサス主義の實行が目前の苦痛を取り去るよい工夫であるように考へるであリませう。ですから、新マルサス主義、則ち、避姙の實行が正當であり、有益であると考へるのも一應尤もな議論であるように思へます。處が、私はそれを尤もだと思ふことが出來ません。で、前に擧げました避姙肯定論者の五ッの理由の順序に從ひまして、私の尤だと思はない理由をお話して行かうと思ひます。

移民問題と避姙

第一は、人口過剩が面倒な移民問題、國際問題を引き起すと云ふことで御座いますが、そして、これは日米問題を差して云ふのでありますが、併し、私の考へますには、米國は全然移民を抗むと云ふのではなく、東洋人種を嫌つてゐるのであります。其の證據には歐洲からの移民は每日〳〵何千何萬と流れ込んで行つても、其れは少しも問題にはならないで、歐洲からの移民の何百分の一位にしか相當しない東洋人種の移民

が問題にされてゐるのであります。其處に人種的の偏見があるのだと云へば云へるのであります。併し、私共は米國人の偏見を攻めると同時に、なぜ、米國人に其の偏見を造らせたか？ なぜ、東洋人種は嫌はれるかと云ふ處を考へて見なければなりません。米國はお存じの通り大きな國で、四十八州のうちのたつた一州のカリホルニヤだけでも日本全部を併せた位ひ大きいのに其の割り合ひに人口は少ないのですから、農業上の理由から計りでも大いに移民を歡迎するのであります。米國自身のために利益であるにも拘らず、それを抗むと云ふには抗む理由が其處になければなりません。米國人は移民が嫌なのではなく、日本人が嫌なのですから、移民を送らないようにするよりも、嫌がられない移民を送る工夫をしなければならないのです。云ひかへれば日本人の質をよくすればよろしいのです。ですから、移民問題解決のために新マルサス主義を實行せよと云ふことはおかど違ひであります。

勞働問題と避姙

第二、勞働者が多過ぎるから勞働者の賃銀が安い。勞働者同志の競爭の結果は勞働者が資本家に利用される許りである。勞働は商品扱ひにされて需用供給の鐵則の下に勞働者は呻吟しなければならない。であるから、勞働階級は子を生まないようにして、資本家に利用される競爭者を造らない算段をしなければならない、と云ふのでありますが、併し、勞働を商品扱ひにすることの非人道的である事は既に〳〵世界に認められて居りまして、國際勞働會議に於ても『勞働を商品とせざること』と云ふのが規定された位であります。また、凡ての資本家が人道的とならず、又、勞働者自身も一人格者として取扱はれる價値を造つて居りませんので、其の規定が實際には充分適用されてはありませんが、併し、早晩、徹底的に適用されなければならなくなつてゐます。

つまり、今迄は勞働が主で人間が從であつたのでありますが、これからは人間が主で勞働が從にならなければならなくなつて居るのです。勞働が主で人間が從であるならば、勞働は需用供給の鐵則に支配されますから、勞働者の人數の多いことは隨分苦

痛であるに相違ないのですが、幸ひに今日の文明は勞働を商品にせざることゝ云ふ處迄進んで來て居ります。ですから、今更、勞働者が多いために勞働が商品化されると云ふ議論はやくに立たなくなつてゐます。資本家も勞働者も『勞働を商品とせせること』と云ふ規定に一日も早くもとづくように努力すればよろしいのです。

聞く處によりますと此の頃或る新聞社では職工を二部制にしたとかすると云ふことです。日に月に勞働時間は短縮されて行きますから、勞働者の數は追々不足を告げて行くことゝ思ひます。ですから、勞働問題の解決としての新マルサス主義の實行も亦マトを外れて居るもので御座います。

優生學と避姙

第三、優生學の見地からの避姙肯定に付いては、成程、優生學は遺傳の原則の上に立つて、人類全體の改善を標榜して起つたものでありますから、其の目的は優良な性質だけを子孫に傳へて、劣等な性質は其の人限りにして、絶やしてしまはなければな

りません。低能者、白痴、精神病者、常習犯罪者、大酒者、癩病者など、それを後へ殘さないような工夫は本當に必要です。亞米利加では癩病者が普通の人と一所に居ることを許されません。骨肉との間でも何でも皆裂かれてしまいまして、癩病者收容所となつてゐる或る孤島に送られてしまいます。隨分殘酷のようではありますが公衆衞生のためには止むを得ないでありませう。そして、新マルサス主義實行の肯定論者はさう云ふ癩病者でも避姙法を講ずれば結婚生活をしてもよろしいと云ふのでありませうが、併し、これは全然病人であります。この外の低能者、白痴、精神病、常習犯罪者や大酒者は皆病人か乃至は不具者です。そして、それ等の病人や不具者に必要なものを健全な精神、强壯な肉體の持主に持つて來ることが果して正當でありませうか？健全な精神、强壯な肉體を持つてゐる有益な國民の生活を規定するのに、それ等の病人や不具者を標準とすることが正しいことでありませうか？　病人や不具者を標準として健全な一般人を律しようとすることは、其の健全な人達に對して大變失禮なことであらうと私は思ひます。

結婚問題と避妊

第四、相當な年輩になつても經濟的事情のために結婚が出來ないから醜業婦の存在も止むを得ないと云ふようなことになるが、もし、新マルサス主義を行ふならば學生時代からでも結婚することが出來る。子供の出來る憂へさへなければ、まだ、親に仕送りを受けてゐる學生時代から、もう、幸福な結婚生活が出來ると云ふのでありますが、これにも私は不贊成を申ます。

此の頃の學生は惰弱に流れてゐると云ふことをよく聞かされますが、此の頃は勉强するのが餘まりたやすくなつてゐるからではないかと云ふことを私は考へます。私の夫はまだ十歲にもならぬうちから丁稚奉公にやられまして勉强する機會が少しもありませんでした。で、少し大きくなりました時に、主人の店の戶が閉つてから田舍道を三里も步いて或る漢學の先生の許に通ひました。そして、三行か四行漢學を敎はつて主人の店へ歸つて來ますと夜の短い時などは、もう、東の空が白んでゐたと云ひます。

これは又、困難の極端でありませうが、併し、さうして覺へて行かなければならなかつたことによつて、其の僅かな三行か四行の漢學が一字殘らず血にも肉にもなつたように思ひます。

私も全く無學で學校の門は殆んどくゞつたことが無いと云つてもよい位で御座いますが、あまりの無學が情けなさに私は一層の事英語を少し覺へて見ようと考へました。そして、家事の合間〳〵に、又は、子供が眠つてゐる間に英語の讀本を見てゐました。普通の學生のやうに勉强することが其の日〳〵の仕事ではなく、煩雜な家事育兒にたづさはりながら三四冊の辭書が破れてしまう迄、辭書を引くと云ふことは生やさしい仕事では座御いません。で、今は、いくらか英語が役に立つようになりましたが、それに付いても私は私が覺へた英語其のものよりも、英語を覺へるに付いての努力、苦心の方が今の私に大變ためになつてゐると思つてゐます。英語を覺へる間に練つた忍耐力が大抵の事には屈しない精神を養成し得たと私は信じてゐます。

又、勤勉に働いて貯蓄すると云ふことは貯蓄された金其のものよりも其の努力に價

値があります。勿論、金其れ自身も有益には相違ありませんが、其の金をためるに付ひての努力が其の人の人格を築きますから。そして、さうして貯めた金には心血が注いでありますから、一文でも無駄使ひは出來ないようになります。

大分、餘計なことを申ましたが結婚に付いても同じことが云へると考へますので、それを分つて頂きたいためにくど〳〵と餘計なことを云つて參りました。生理的に結婚し得る年頃になると直ぐに少しの苦心もせず考へて見る時間も持たずに結婚生活に入るならば結婚生活の樂しいと云ふことも、又、結婚生活の價値も分らなくなつてしまうであらうと私は考へます。結婚したくても出來ない、生理的には其の資格が出來ても、まだ、經濟的に又は精神的に夫として妻として、又、親としての資格が出來ない、もつと修養しなければもつと能率のある人間にならなければと努力してゐるうちに人間が出來て行くのだと私は考へます。慾望するものを持ち得ない苦しみによつて、考へもし、努力もするうちに戀愛は神聖化され、結婚は重大視されるようになると私は考へます。自分が苦心して得たのでない金の本當の價値は分らないやうに、餘まり

やす〳〵と出來る結婚も價値のないものになつてしまいはしないかと思ひます。

今の處、女は男よりもあらゆる點に於て劣つてゐますが、そして、それにはいろいろの理由がありますが、其のうちの一ッは、男は結婚するには相當の資格を造つて置かなければならなかつたのに反して、女には其の必要がなかつたと云ふ處にも大きな理由があらうと考へます。

婦人の解放と避姙

第五、婦人の立場から、婦人の重荷を輕くするため、多産のための母體の苦しみを救ひ、母態の健康を計るため、そして、母の生活を餘裕あらしめ、進歩的なものにしなければならない。婦人の解放には産兒を制限しなければならないと云ふのでありま す。そして、多産のために衰弱しきつた婦人や、遂ひには死んでしまつた婦人や、大勢の子供を抱へてだらしのない生活を送つてゐる婦人を例にとつて來て、そして、新マルサス主義の實行が力説されてあります。けれども、私は大多數の女が出産の數が

多いために身體が虚弱になつたり、死んだりすることを信じません。さう云ふ婦人も一々探して歩いたならば可なり多數になるでありませうが、併し、それは、子供が欲しくても生めない人が例外である程度に於て、矢張り、例外であると思つてゐます。

子供の數は多いと云つて四五人、或ひは、六七人であつて、十人以上生む人は例外のうちの、又、例外です。ですから、それを標準とすることは出來ません。そして、四五人か、六七人の子供が多過ぎて其の子供の仕末が出來ないような人は一人でもキヨツに仕末をして行く人ではありません。或ひは子供が一人もなくつても自分の體とうちの中をキチンとして置く人ではありません。自分の身の仕末も出來て、一人か二人の子供をうまく取扱つて行く人は六人でも七人でもうまく取り扱つてキチンと仕末をつけて行く人です。一ぺんに六人も七人も生れるわけではないのですから。ですから要は子供の數の問題ではなく、其の人の能力の問題です。

有産階級ならさうだろうが、無産階級が七八人の子供を育て、敎育して行かなければならないと云ふことは容易でないと云ふのも、産兒制限に對する有力な議論であり

ますが、此れも問題のマトが外れて居ります。經濟力がありさへすればよいのですから、子供を生まない工夫をするよりも經濟力を造る工夫をしなければならないのです。

併し、この經濟力の理由の下に、勿論、外の理由も加はつて居りますが、歐米に於てはなか〳〵盛んに避姙は行はれて居ると云ふことであります。我が國では此の邊の實状が委しく研究されてありませんからよくは分りませんけれども、二三年以前ウエッブ氏が英國の中等階級を調べて見ました處が三百十六組みの結婚生活者のうちで二百二十四組は避姙法を採用してゐたと云ふことであります。そして、勞働階級の出産率が非常に減つた事は矢張り其の避姙法が盛んになつたしるしだと云はれてゐます。

婦人の重荷を輕くし、母の生活を餘裕あらしめ、婦人の向上を計るため産兒を制限しなければならぬのだと新マルサス主義實行論者は云ふのでありますが、婦人の向上とは一體何でありませうか? 要するに婦人の幸福の增進に外ならないでありませう。

そして、婦人にとつての最上な幸福は家族のためにも社會のためにも有益な人物を一人も多く造り出すことであります。今迄の多くの婦人論客は人生の唯一部のみを見て、人生の全體に目が通つて居りませんでした。ですから、權利がどうの智識がどうのと云つて騷いで來たのでありますが、併し、私は、王者のやうな權利を持つよりも子供の愛情を持つた方が婦人には幸福であると信じます。千卷の書物を讀破するよりも榮へ行く子供の生活を見た方が幸福であると信じます。子供を純な愛情の持主にするために、有益な社會員にするために自分の頭を練つて置く必要上、書物を讀む必要があります。子供の生活を榮へさす準備をするために權利を必要とする場合も起つて參ります。でありますから、婦人の生活は子供が主で權利や智識は其の從であります。そして、新マルサス主義の實行は今日迄の一般の婦人論と同じで從を生かすために主を殺すものであります。

今迄、女は、全く壓迫しつくされて居ましてあらゆる方面に伸びることの出來る持つて生れた力を表現し得なかつたのでありますが、それでも、猶、我が子に對する愛

情のためには随分强くなり得るものです。女の智識慾も此の頃では随分盛んになりました。自由を尊む女の戀愛の力も随分力强いものでありませう。けれども、我が子を安全に保護しようとする母の力には及ばないと私は思ひます。女の本當の力は子を持つて始めて充分に發揮し得るものだと私は信じます。そして、其の力は一人の子よりも二人になれば二倍となり、三人になれば三倍にと云ふように子供の數が多くなればなる程其の力も大きくなるものだと私は信じます。ですから、子供の數を制限することは、それだけ婦人の婦人としての本當の力の增大を制限してしまうものであります。それだけ、婦人の幸福を小さくするものです。

子供其れ自身が親の幸福のため、又、國力發展のため、どの位要用なものであるかと云ふ問題を別としても、親達が自分に授かるだけの子供は幾人でも立派に育てゝ行かう、育てなければならないと云ふ意氣ごみは其れだけでも本人達の幸福であり、國家の基礎を堅固にするものであります。

自分の生命の延長である子供を仕末しきれないやうなだらしのない女や、子供を生

むために生命が保てないで死ぬやうな病人を標準として、健全な勇敢な自他の幸福を日々創造しつゝあるような一般婦人に新マルサス主義の實行をすゝめることは其の婦人達を侮辱することになりはしないかと私は思ひます。

個人本位主義と家族本位主義

新マルサス主義の實行を主張するに付いてはいろ〳〵な理由が附加されてあるのでありますが、要するに先づ大體に於ては、自己の利益を本位とする利己主義から出發してゐるものだと私は考へます。中には子供をよりよく養育するため數を制限するのだと云ふ主張もありまして、これにも一理あるやうではありますが、併し、それはあらゆる方法を講じた後の言葉であるとは私は考へません。そして、話が、一寸横道に這入るやうではありますが、一家族を社會の單位と見るのと、個人を社會の單位と見るのとでは結果が非常に違つて居りまして、そして、新マルサス主義の實行を肯定する人は個人を社會の單位に見る處から來て居るように考へられますから、個人を社會

の單位と見る個人本位主義と家族を社會の單位と見る家族本位主義の相違を少し、御話したいと思ひます。

此處に先づ二人の靑年があるとします。一人の靑年は親に財産があるために充分な敎育も受けることが出來るし、敎育が終つていよ〳〵社會に立つ時には親の財産を資本として立つことが出來ます。これに反して、もう一人の方の靑年は親に財産が無いために敎育を受けることも出來ず、社會に立つ時にも一文無しであるとします。そして、此の二人が個人對個人で競爭しなければならぬとすると其れは非常に不公平であります。けれども、こう云ふ場合に一個人の代りに一家族を單位と見ることによつて調和が出來て參ります。

家族を社會の單位と見る事は遺産を正當とする

家族を單位に見ます時には、家族は一時的のものでなく、むしろ、永續的のものでありますから、競爭が一人の人に始まり一人の人に終ると云ふことがありません。其

處で調和がとれるのであります。そして、此の家族を單位とする見方は親の遺産を正當なものと致します。競爭に於て、遺産は個人に不當な利益を與へるものだとは考へません。家族のものが儲けた利益は當然其の家族に屬するものと考へるのであります。個人的に考へるよりも家族的に考へる習慣を持てば持つ程、又、家族の共同的精神（ソリダリティ）と永久性と、又、家族の利益の統一を考へれば考へる程、それだけ遺産と云ふものに價値が出て來ます。けれども、家族と云ふものよりも個人を重く考へて、家庭は唯一時的の生物學上の單位で、單に子供を生む場所と考へるならば、つまり、家庭は結婚をもつて始まり、子供を生んでそして育てる間だけの目的のために存在して、そして、兩親の死と共に消滅するものと考へるならば遺産と云ふものゝ價値は小さくなつてしまいます。

個人を社會の單位と見ることが現代の流行

そして、今日の一般の傾向は堅固な永久的な家族を社會の單位として見るよりも、

家族を一時的な生物學上の單位と見る方に行つてゐます。純粋に個人主義的な考へから制度としての家族を排してしまはうとする傾向すら見へます。制度としての家族は排しても、生殖のために男女が同棲することの必要は認めてゐるのです。

家庭は一時的の生物學上の單位であると云ふ考への方向に輿論は傾いてゐるのでありますが、併し、それが進歩の方向に向つてゐるものだと云ふわけではありません。多くの人がさう考へるからと云つてそれが進歩だと云ふわけではありません。

家庭は、唯、子供を生んで、育て上げる目的のために存在するだけの、唯、生物學上の單位ならば、それでは、子供を育てる仕事は國家に任せてもいゝわけです。女權擴張のため、集合的育兒法の制定を主張する婦人論はこう云ふ處から出立してゐると思ひます。こう云ふ風に考へますならば、明らかに家族の永久性は無用なものとなります。親が子供に對して責任觀念を持たない、これが個人本位の考への到着しなければならない點であります。そして、親と子との關係は、唯、生物學上の關係に止まるものでありますから、子供は國家の經營にかゝる無人格な、機械的な集合育兒法によ

つて育てられゝばよいと云ふことになります。

個人本位と家族本位の混亂

此の個人本位と、家族本位の二ッの型はいろ〳〵の度に於て、マゼコゼになつて、今は、存在してゐます。此の二ッの型の間の差と云ふものは今の處では、唯、力の入れ方の差でどちらへでも傾き得るようになつてゐます。どちらの極端にでも、つまり、家族本位の方へでも、個人本位の方へでも、どちらへでも、傾き得ると云ふのが今日の社會の狀態です。ですから、今日の處では家族本位の型と個人本位の型の爭いだと云つてもよろしいでせう。貴族的の家庭は家族本位に重きを置いてゐます。家の名、及び、未來の家族を現在と同じように大事に思つて、遠き子孫のために迄も計畫しようとしてゐます。お斷りして置かなければなりませんが、凡ての貴族が家族本位であると云ふわけではありません。かたちは貴族でも內容は全く個人本位になつてしまつて居るのもありますし、又、名は平民でも內容が家族本位であるのも澤山あります。

民衆は家を重んじない

我が國のみならず、世界各國に於て、所謂民衆は、家の名とか、家の云ひ傳へとか或ひは系圖とか、又は、子孫に付いて多く考へません。そして、私有財産に對して反對を稱へるのは此の階級の人達です。民衆のうちにも、家族本位的の本能を強く發達させて、家庭に對し深い愛情を持つてゐるものも無くはありません。けれども、それは多くの場合自分一代だけか、或ひは極く自分に近い前後にだけしか影響しないで、貴族的の家族本位の人が遠き祖先や子孫を思ふものとは到底比較にはなりません。

家族本位の人が重要な位置を占める

そして、殆んど、どの時代に於ても、家族本位を主義とする人が、個人本位則ち夫婦關係は單に子を生むだけのものだと考へてゐる人を支配して來ました。そして、それは決して偶然ではなかつたのです。なぜなら、家族本位の人は習慣的に子孫を思つ

てゐる人、則ち、自分の將來のため計りでなく、家族の未來を思つて、目前の自分の利益を犧牲に供する人です。ですから、其の家族の繁榮、勢力、權力は代々殖へて行きます。これに反して、現在にのみ生活しようとする個人本位の人には家族本位の人のように積み重なつて行く利點がありません。從つて、除々に追ひまくられて、支配される位置に置かれるのです。

近世の經濟上の繁榮が其の原則を不明にした

けれども、近世になつてからの經濟上の繁榮は、西洋では過去百五十年間と云はれて居ますが、日本では先づ明治の初年からとも云へませうか、其の經濟上の繁榮が今御話し致しました法則を不明にしました。速かに產業が發達した結果は驚く程の身代が一代で造られたり、次の時代には倒れたりしました。甚しきに至つては一代のうちにお金持ちになつたり倒れたりしました。そして、さう云ふやうに變化の甚しい狀態の下に家族本位の利點が全く分らなくなつてしまいました。風の吹き廻しで身代が出

來たり無くなつたりするのですから勤勉に着實に造られる財産の價値が分らなくなりました。又、不圖したことで名を成したり失つたりするので、名などは何でもないやうになつてしまいました。そして、その結果自分の家の名、家の名譽のために自分の目前の利益を犧牲に供するなどと云ふ風は少なくなつてしまつたのであります。

併し、こう云ふ洪水的な變化の中からですらも、矢張り、家庭の理想に忠實な人が出て來て、そして、さう云ふ人が矢張り社會に於ける重用な位置を占めました。歐洲の或る國々のやうな社會主義の立法のために、さう云ふ人が產業の方面を支配することが出來ないようになつても、さう云ふ人は政界に、又は、官界に矢張り優れた才能を働かせる範圍を見出します。そして、矢張り、他の階級を支配する位置を占めます。民心を統一するための政治上の政策からも、又、最も民主的と考へられる社會に於てゞすらも、家族本位の貴族的の家から出たそして正確な智識と勢力と熟練とを持つた人が、個人本位的の家庭から出た人を可なり一般に支配してゐます。これに付いての委しいことはロベルト・ミヘル博士の名著『政黨社會學』のうちに論じられてありま

す。

家族本位の萎靡が國力の萎靡

一般教育、殊に、經濟學の普及は遺產の權利をだん〳〵小さくして行く傾向を增長して行くさうでありますが、併し、これは健實な家族本位を主義とする人の繁榮と力をだん〳〵小さくして、そして、その人達をも個人本位の人達の仲間に追ひ込んでしまうと云はれてゐます。で、全然遺產と云ふものが排されないにしても、此の制度の利點を見ることの出來ない一般民衆はどん〳〵此の制度廢止の方に努力しますから遺產の權利は狹められて行く計りになつてゐると云はれてゐます。

處で、さう云ふ方向に速かに進んで行く國民は追々に衰微して、其の國は、家庭の理想を守つてゐる國民、其れを奬勵してゐる國に遂ひには併吞されてしまうと云ふ憂へがあると云はれて居ます。で、もし、さうだとすると世界は矢張り家族本位を主義とする人のものであります。勿論、或る國に於ては個人本位を主義とする人の數の方

が多う御座います。そして、數に於ては家族本位を主義としてゐる人を負してゐます。そして、其の結果は健實な有力な人々が組織して居る政府を倒してしまうこともあります。けれども、數を賴んで、多數黨が政府をのッとつた處がとるべき方針が間違つて居れば其の勝利は一時的であります。のみならず、有力な賢い政策をとつてゐる國家との競家には堪へられなくなつて矢張り倒れなければなりません。

で、結局、國民が信賴する政策は賢い政策か賢からざる政策かゞ問題であつて、人望がある、ないの問題ではありません。政治家でも、思想家でも、又は商人でも安ッぽい人は、何にが一番人望があるだろうと云ふ處に苦心します。けれども、政治家であれ、思想家であれ、商人であれ、眞面目な建設的な人は何が一番正しいかを發見して、そして、それをはやらせるように苦心します。で、人のしてゐる仕事が建設的であるか、キワ物であるかは、其の取り扱つてゐる問題が轉々として變つて行くか行かないかによつて容易に判斷することが出來ます。

勞働者の敵は成金資本家

機械の時代になつてから何處の國でも驚くべき程産業的に繁榮致しました。そして此の繁榮がキワ物師を造り、個人本位主義の勢力を造りました。そして、其のキワ物師、個人本位主義の人の中に幾人かの金持ちを造りました。所謂成金資本家が出來ました。で、私共が攻擊しなければならないのは、そして、勞働階級が極力打ち倒さうとしてゐるのは此の成金資本家であります。本當の意味の資本家はパイオニア、則ち奮鬪的な開拓者であります。本當の意味の資本家は子孫のため並びに社會のために利益を生みます、私共が心から尊敬しなければならない人類の恩人であります。本當の意味の資本家、則ち、開拓者と、自己の利益にのみ吸々としてゐる成金資本家とは外面は似てゐても其の精神は全然反對のものでありますが思慮の淺い者には其の區別が見へないのであります。そして、今日の勞資の衝突と云ふのは其の成金資本家と勞働者との衝突であろうと思ひます。

眞の資本家は人類の恩人

本當の意味の資本家、自分の額に汗してためた金であれ、又は、親の心血の結晶である金であれ、其れを資本として人類の幸福を開拓しようとする私共の恩人である資本家も、俗悪な個人本位の資本家も同じものであるように淺薄な勞働運動者は思つてゐるやうであります。俗悪な人を人とも思はない自己の利益しか見得ない國民の心血をしぼり取るやうな悪資本家は倒さなければなりません。けれども、勞働者階級が、それ等の自己本位な個人主義的な人道を無視した資本家と同じように、矢張り、個人主義者であつて、夫婦關係は唯生殖上の關係だけであると見てゐる間は其の資本家を倒すことは出來ません。けれども、勞働者階級が社會の單位を個人とする個人主義的の境を脱して、社會の單位を家族と見る家族本位主義者になることによつて、除々と自己の勢力を積んで行くことが出來て、引ひては勞働者階級の向上となり、悪資本家に對抗する準備が出來て行きます。

此の家族本位主義を奉ずるならば、競爭に於て、まだ今日の處では競爭の時代でありますから、よし、自分は不利の位置に生れたとしても、我が子を其の競爭に於て有利な位置に置くことが出來ます。勿論それには大きな努力が必要でありますが、そして、それは自分が有利な位置に立つたと同じように、或ひはそれ以上に愉快なことであるに相違ありません。そして、これは現在の自己の利益を犧牲にしても自己の未來を計る家族本位を主義とする人でなければ出來ない仕事であります。そして、さう云ふ人には新マルサス主義の實行などは思ひもよらないことであり、そして、こう云ふ人が國家の中堅、人類向上の基礎を造るものであります。

けれども、世間には意志の弱い人が多う御座います。さうとは知つても、現在あまり骨が折れるとツイ不健全なことだと承知しながらも誘惑にかゝり易いと云ふやうな人があります。で、其處に、其の局に當る人の仕事が御座います。さう云ふやうな人々に對する保護政策の必要が起つて來るのであります。

新マルサス主義實行の主張にはいろ〳〵な理由が附加されてはありますが、先づ、

大體に於ては、現在の利害、則ち、個人の利害から出發したものだと考へることは前にも申ましたが世の中に權利のみを主張して義務を負はなくてもすむならば、つまり、それで社會が害されないならば、社會の萎靡と云ふことはない筈であります。

慾望が文明を造つたことは事實であります。なぜなれば、慾望は社會力だからであります。慾望のない處には意志がなく、意志のない處には社會的の精力がありませんから。實に、文明は盛んな社會的精力の產物であります。そして、文明を建設した慾望は矢張り、一種の本能に過ぎません。けれども、文明を建設した本能には敎育がありました。責任觀念がありました。利他主義の觀念、自己犧牲の念に富んでゐました。他人の權利を尊重する要素がありました。ましてや他人の生命を最高に尊敬致しました。まだ、生れぬ生命をも尊敬致しました。云ひかへれば、文明を造つたものは責任を全うした本能の力であつたのです。で、此處に私共に與へられた問題は子供を制限して本能の活躍をほしいまゝにするか、それとも、本能を敎育して性慾を抑制すると同時に社會制度を改良し、生れるだけの子供を正當に養つて行くかの二ッであります

す。處で、前にも申ました通り、子供を制限して本能の活躍をほしいまゝにすることは自分自身を小さくし、社會の勢力を萎靡させるものであつて、もう一ッの方は自己を擴大し社會の勢力を旺盛にし、從つて、文明を增進するものであります。

本能の征服が最大なる征服

なぜなれば、文明とは自然を征服することであります。そして、自然界の力を征服するもの丶うちで自分自身の本能を制服することが最も大きな征服であります。けれども、新マルサス主義は自然の力に、則ち、本能の力に自分を服從させることであります。そして、此の主義を押し進めて行つたならば、食ひたいのは人間の本能である、故に、食ひたい時に他人のものを盜つて食つたとて其れは罪惡ではないと云ふ處に落ちはせぬかと私は考へます。

新マルサス主義實行の主張に關して、まだ云ひ足りない處もありますし、又、今、お話した家族本位主義は、個人を全然無視して個人の發達を阻害してしまう、從來の

家族主義とは違ふものであることを申上げたいので御座いますが、下手な話が餘まり長くなつては恐れ入りますから、今日はこれだけにして置きます。（慶應辯論部講演）

「最近米國から傳はつた話に依ると夫婦は永続的に別々の世帯を有つべきものだと云ふ説が行はれてゐるが而かもそれは結婚が不幸に終つてからの事でなく却つて其の豫防法と言ふので、英國でこれより少し穏和な折衷案とも言ふべき説を唱へて居る人がある。倫敦近郊ハムステッド市の牧師ベシル・パッチヤー氏が即ちそれで家庭の不和を救ふ妙藥として夫婦別々に休暇を設ける事を唱導して居るが此人の説によると人道を愛し夫婦關係の安定滿足を計るためには此の方法こそ萬能藥であると言ふのである氏は自分の教區雜誌九月號で次の如く言つて居る『家庭の不幸及び誤解の大半は家庭の各員が永久に結びついて居なければならぬと云ふ原則に縛られてゐるから生ずるとは余の眞實に信ずる所である、夫も妻もその他の家族も各々別々の休日をとるがよい』（國際通信）」

併し、社會に害毒を流す非社會的な人間を社會は社會から隔離すると、同じ意味で非家庭的な夫婦の永續的別居も或ひは夫婦仲をよくする有效な方法でありませう。

ミル著『婦人の服從』の梗概

1

法律上婦人か男子に服從するのは不正であることを證明して、そして、完全なる男女平等の權利を婦人に讓るべきだと云ふのが此の著作の目的である。

2

併し、此の提案を防禦することは困難である。何となれば、男子と平等の權利を婦人に抗んでゐることは議論の上に基礎があるのではなく、強い感情のうちに其の根を張つてゐるのであるから。

3

其の提案を防禦するに付いてのもう一ツの困難は一般の習慣が婦人の服從をよしとしてゐることである。

4

けれども、もし、一般の習慣、及び、感情なるものが人間の最下等なる性質に基礎をもつてゐるものであるならば、人は其の一般の習慣や感情を信じてはならぬ。そして、婦人の無資格と云ふことに對する一般の情勢も亦人間の最下等なる性質から來てゐると云ふことを證明するのは容易である。

5

婦人の法律上の服從は最初から適用されてゐたのではない。社會制度の比較や經驗の結果、婦人の服從が人類のために最上であると證明されて適用されたのではない。男子の婦人よりは優れた體力がいつの間にか權力と變じ、そして、其の權力が社會によつて批准されたのである。法律上男子が獲得した其の力が正であるか不正であるかと云ふことを思想家が考へ始める前に既でに何世紀かゝ經過してしまつた。今日に於ける婦人の服從は社會的利益と云ふ見地から存在してゐるのではなく、唯、元始時代の奴隸狀態の引き續きなのである。そして、其の狀態の存在から推測される唯一ッの其の狀態をよしとする假解論は今迄其れが續いたと云ふことに過ぎない。

6

一般から云ふと、腕力が權力であると云ふ法律は其の腕力が他の側に移つて行く迄しか續かない。けれども、男子は今猶其の勝つた腕力を持つてゐる。そして、今日の婦人の此の特種な位置は、婦人の男子に對する殘酷な關係の存在を說明する。

7

此の說明が眞理であることは明瞭である。以前には如何に腕力の法律が完全に行はれてゐて、そして、それが全く承認されてゐたかを知れば此の說明の眞理であることは自ら明らかになる。けれども、

優勢な人間が何にかの便宜のために劣勢な人間と或る約束をした場合にのみ、其の優勢な人間が劣勢な人間の權利を認め始めたのである。奴隷に道德上の責任を最初に敎へたのはストイック派（猶太人を除く）の人々であつた。基督敎も其の道德上の責任を敎へたのであるけれども併し、强い者に其の腕力を捨てさせることには成功しなかつた。壓迫されてゐた人々が復讐するだけの充分な力を得た時にのみ壓制家の暴力が制限されたのであつた。

8

腕力が權力であると云ふ原則の上に造られた制度が今日猶存在してゐることを忘れてはならない。——たとへば、人身を物品扱ひにして賣買する如き。其の動機が唯利益を得たいと云ふ露骨な慾望に過ぎないことは勿論である。絕對君主國に就て、人は考へて見る必要がある。男が女を支配する權力が、國王、又は、奴隷の持主よりもより永久でありよう筈はない。勿論、男の其の支配權は男の名譽心、權力を慾望する心を滿足させ、又、彼等に直接の利益を與へる。けれども、女が徒黨を組んで男に反抗すると云ふことはない。なぜなら、女は征服されてゐるもの同志、つまり、女同志よりも、自分を征服してゐる男と、むしろ、より親密に生活してゐるから。

9

人は、男性の造つた政府は自然である

と云ふことに反對し、又、奴隷を所有すること、絕對君主の權利、及び、腕力の法律は專斷であると云つて反對し得る。けれども、凡てのそれ等の暴力の形式はそれ等の形式を與へてゐる人々には自然であり、そして、其の暴力の形式に從へられてゐる人々にも自然に思へる。普通になつてしまつてゐるものは何でも自然に思へるのである。

10

女性は彼女等自身の無資格であると云ふことを、何等の苦情もなく任意に承諾するものだと云ふ人がある。けれども、實際には多くの婦人が苦情を云つてゐる。もし、又、一般の婦人が、さう云ふことに反對するのは女らしくないとして自分自身の熱望を抑へつけるように敎へられてゐなかつたならば、勿論、もつと多くの女が苦情を云ひ出すに相違ない。猶又、全然奴隷に成りきつてしまつてゐるものは一度に完全な自由を慾求するものでないと云ふことを記憶してゐなければならない。猶又、女は自分を害する者、則ち男の腕力の下に置かれるものであると思つてゐて、女のために存在してゐる保護的な法律ですらも自分に利用しようとは滅多にしない。

11

女は、何故に、集合的に男にそむかなかつたかと云ふもう一ッの理由は、男の心をひきつけるようにするのが女子敎育及び、女の性格を造る目的、いはゞ、北

斗星のように唯一のものであつたからである。もし、平民や農奴が、男に對する女の場合と同じように、貴族や大名に目をかけて貰ふように其れを目的として敎育されたならば、そして、いよ〱其の惠みにあづかることが出來て、他の利益から遮斷されてしまつてゐたならば、農奴と大名との間及び、平民と貴族との間は社會的にも政治的にも、今日の男と女の間に區別があるように幅の廣い區別が出來てしまつたであらう。

12

人類の進歩は婦人を無資格者として置くことが正しいかどうかと云ふことに付いて強き推測を下すようになつた。そして、婦人の無資格と云ふことが消滅すべきを當然としてゐる。

13

現代の世界の基調は、人は生れた位置に鏈で繋がれてゐることの代りに、自分に最も都合がいゝと思はれる運命を自分自身で自由に選まねばならぬと云ふことである。此の、自分自身で自分の運命を自由に選まねばならぬと云ふ現代の考へ方は、他の方法を幾度も〱試みてそして失敗した後に適用したもので、そして最も進歩した國に殆んど一般に行はれてゐるものである。個人が自由に自己の運命を選擇する結果は、あらゆる社會的の行爲が最高有資格者の手によつて爲されるやうになると一般に信じられてゐる。

14

もし、前述の原則が眞理でないならば、其の原則は一般に用ひられてはならない。そして、もし、其の原則が眞理であると云ふならば、女性の故に或る社會上の位置や職業を抗まれるわけがない。たとへ、何年間かのうちに僅か一人でも本當に或る位置に適當な女が現れた時に、其の位置に其の女が女性の故に抗まれるならそれだけ社會は損をすることになる。不適當な人間を人爲的に除外する必要はない。自由競爭が不適當な者を自然にズン／＼除外して行くから。

15

婦人の服從は生れながらの運命である、婦人は女性と生れたが故に競爭してはならないのだと云ふことになつてゐる。けれども、男でも競爭出來ないとされてゐる場合がたつた一ッある。それは王位に生れた女性とは競爭出來ないのである。併し、それは實際であると云ふよりも、むしろ、さう見ゆるだけである。何故なれば、王位は、現代に於ては唯、名計りのものと考へられてゐる。そして、唯、形式によつてのみ支配されてゐるのである。實際には、王の作用は丁年以上の男子によつて爲されてゐるのである。

16

婦人の從屬は、思想界に於ても實際界に於ても、唯、過去の遺物であるので、それに對して、旣でに反對の聲が擧げられてゐる。

17

婦人の服從は、少なくとも正義と利益の問題として服從其のもの丶價値の上から論議される。直接の經驗によつて、證明されたとして、婦人の服從をよしとする主張は、『婦人が服從してゐたにも拘らず人類が今日の狀態に迄進歩して來てゐる。』と云ふ。けれども、各々の社會進歩は婦人の位置の改良に伴つて來たものである。

18

男を治者に女を被治者の位置に置くことが人間の性質にかなつてゐると云ふことは何等の理由がない。我々は男性及び女性のそれ〲の性質を完全に知ることは出來ない。何となれば、今日の人爲的の男女間の關係の外には男女の間に何等の關係がない。そして、今日、女の性質と稱されてゐるものは、壓迫の結果不自然にされてゐるものであるから。

19

其の上に、我々は、如何なる力が一般に人間の性質を造るものであるかと云ふことに付いては餘まりに無學である。

20

婦人の特性が何であるかを知る前に、我々は解剖的に、如何なる事情が人の性質をどんな風に造るかと云ふ、其の法則を研究しなければならない。教育や、外部の事情から説明出來ない女の特長は、女としての特種な性質から來てゐるものであらう。

21

我々は兩性間の實際の心理上の差が何であるかを知らない。我々は、愚かな女の考へてゐることは知つてゐる。愚かなものは自分の意見を周圍のものによつて造られてゐるから。けれども、進んだ智力的な女の内部生活を我々男子は知ることが出來ない。男は女の心を知るに都合のいゝ關係に置かれてゐない。戀愛關係に於て、女は自分の性質の唯一方面を男の前に現す。けれども、同時に、他の方面を全く覆ふてしまう。それから、又、大抵の男は、唯、一人の女の性質を研究する機會を持つことが出來る。併し、此の場合に於ても、男の權力が女の胸襟の全部を開かせない。のみならず、かりに男が一人の女を理解したとしても、それは一人の女に止まつてゐて、他の女を理解することは出來ない。ましてや、他の時代の女、他の國の女、他の階級の女を理解することは出來ない。女は自分自身を語る自由を持たなければならない。

22

女が自分自身を語るに都合のよい時代は、唯、除々に來るであらう。そして、女自身は彼女等の本當の慾望、及び、信仰を話すことをだん／＼恐れないようになるであらう。彼女達の社會上の位置が男の恩惠から離れて獨立すればする程女は自由に自分自身を語るようになる。そして、其の時に彼女達のものを根本的に觀察する資格、及び、表現する能力が發達する。

23

もし、男には女の性質が分つてゐないと云ふことを男が悟つて居るならば、しからば、男は女の仕事に關して命令などをしてはならない。幸ひに女に關する男の智識は必要とされてゐない。現代の原則は女の事は女自らが解決しなければならないとされてゐる。

24

婦人に活躍を許しても、婦人は決して女の性質に反するやうな方面には行かないと云ふことは確かなものゝ一ツである。男との自由競爭が許されても、女は必ず女が必要とされる處に、又、女に最も適した仕事の方に行くものである。

25

女から女の無資格を取り去ることを恐れる男は、もし、女が自由になつたなら、女は妻となり母となることを避けるであらうと考へてゐるやうである。けれども、もし、女が女に自然であるその職務を厭つてゐるとするならば、女の性質の他の方面を害するものが其の妻母の職務に伴つてゐるに相違ない。故に、結婚生活を女に興味あるものとすればよいのだ。そうすれば、女は必ず結婚する。けれども、もし、結婚法が女を壓制する法律である以上は女は必ず結婚を厭ふであらう。

(第一章終り)

米國婦人は參政權を持つて何をする

婦人參政權運動組織者の一人として有力であつたエステラ●ダルジョード夫人はいよ〳〵其の目的を達して米國婦人が參政權を獲得した今日何を考へて居るかと云ふと、夫人は雜誌『ネーション』（九月四日發行）に次のやうな意見を發表してゐる。

長い問奮鬪を續けてゐた婦人參政權運動はいよ〳〵終結を告げたが、此の運動の最も重用な結果の一ツは何千の婦人が亞米利加の社會生活の根本義に付いて實際敎育を受けたことであつた。參政權を行使するに付いて我々婦人が學ばねばならぬと長い間思つてゐたこと、或ひは、恐らく其れ以上のものを我々婦人は今日迄の運動によつて學んでゐる。何となれば參政權運動はあらゆる階級の婦人を共通利益の基礎の上に一所にした。尤も、長時間勞働に服さなければならない勞働婦人や、大勢の子供を抱へた勞働者の妻達は、幾分の餘裕をもつてゐる婦人達のやうに此の運動に參加することは出來なかつたけれども、併し、運動者の方から彼女達を一人〳〵訪問して步いたことに

よつて我々運動者は他の方法では致底知ることを得ぬものを知り、親密になれぬ婦人達と親密になつた。そして、合衆國に於ける經濟上の苦しみはどんなものであるかと云ふことを熟知することが出來た。そして、我々婦人は人から聞かされたことなどは皆捨てゝしまつて我々自身の觀察を基礎に議論をすることを覺へた、故に今日迄參政權のために費されてゐた婦人の精力の大部分は、今後は、勞働問題の川の中へと流れ込んで行くであろう。殊に、青年婦人參政權運動者は其の勞働問題の方に力を注ぐようになるであろう。社會の不幸は、婦人が不平等な位置に置かれてある結果であると婦人運動者は信んじてゐた。婦人の位置が男子と平等になりさへすれば、そして、政治に對して發言權を持ちさへすれば、戰爭は防止され、あらゆる社會上の禍は救濟されて、此の世界は住み心地のよい場所になると婦人運動者は信じてゐた。

けれども、其の婦人運動者は、大小の都市及び、地方を遊說して歩いてゐるうちに、婦人運動のプログラムが果して婦人の不幸、及び、社會的の禍を救濟し得るや否やを疑ひ始めた。そして、婦人運動者は、婦人運動のプログラムは、もつと大きなプログラム則ち經濟上の調節のプログラムのうちの唯一部であると云ふことを悟つた。であるから、單に、婦人の利益のための投票と云ふことだけでは大したものにはならないが、併し、婦人

が現任の經濟上の悪狀態を理解して其の解決に利あるように投票權を用ゆるならば其の投票權は有効なものになるであろう。

又、婦人參政權運動者は工場のある町へも遊說に行つた。工場のある町は何處でも大抵同じようであるが、先づ、或る一ツの工場町は一萬三四千の人口を持つてゐる。そして、其の町の富を一人〳〵に割り當てゝ見ると凡ての人が可なり裕福でなければならぬ筈である。けれども、其の町の富の大部分は二十人計りの人の手の中に這入つてしまつてゐる。そして、大多數の其の富を造るために働いてゐる人々は皆貧乏に苦しめられてゐる。其の大多數の人達は――婦人運動者が學校に於て、及び、米國獨立の布告によつて學んだ民主々義の規則に從ふならば――自分等の住んでゐる町の行政に付いて發言權を持つて居る筈であるのに、彼等はそれ處ではなく、唯、不充分な賃銀に對し、不健康な住宅に付いて苦情を云つて居るだけである。と云ふのは、たとへ、平和な手段を用ひてゞも彼等が彼等の意見を公然と發表するような事をすると其の結果は彼等自身のために必ず好ましからざる狀態に彼等自身が陷れられるからである。こう云ふ町の市長と云ふのは大抵大工場の持主か、さもなければ、其の町の富豪にきまつてゐるので、勞働者の示威運動などは決して許されない。勿論、それが面倒を引き起すからである。そして、

面倒が起ると云ふ事は現狀を變化することであつて、そして、其の變化とは、少數の工場の持主や富豪の利益を削ぐことであるから。

併し、其の工場の門から夜業を終つて出て來る數千の女工を見てゐるならば、年の老けた者は腰が曲つてしぼりかすのやうな顏をしてゐる。若い者はいくらかの血の氣があるが、併し、長からずして其の血もしぼり取られてしまうであらう。それ等の工女達が最少限度の生活すらも出來ないような安い賃銀で働いてゐると云ふことを婦人參政權運動者が知つた時に、其の運動者は單なる投票權がそれ等の女工達の物質的の窮乏を救ふや否やと云ふことを考へないわけには行かなかつたのである。

又、婦人運動者は戶別運動をしてゐるうちに或る勞働者の家に行つた。七人の子供を持つ其の勞働者の妻はうす暗い家の中で洗濯をしてゐた。運動者は一枚のちらしを其の妻に與へた。其のちらしには勿論參政權の主張が書いてあつて、そして、その主張の題は『優良な赤子』と云ふのであつた。處が、其の妻は洗濯盥から體をのばして、『赤子！　オー、赤子ですか！　可愛い赤子とお前さんは云ふんですか！　私にはもう七人も其の可愛い者があるんですよ。もう、あき〳〵して氣持ちが惡くなつてゐるんですよ。どうすればもう生まなくてもいゝか、其の方法を知りたいものだ。そして、今迄に生

れた奴等の腹がへらないやうな工夫があれば知りたいものだ！』と、あらく\しく云つた。で、再び、婦人參政權運動者は、單なる投票權の力を疑はなければならなかつた。其の運動者は終日働いて、そして、非常に失望して家に歸つていろ\／\な疑問に苦しまねばならなかつた。

其の運動員は、今、現に大多數の亞米利加婦人が、世界に於ける烈しい生存競爭の渦の中に投げ込まれてゐると云ふことをまのあたり見て來たのである。そして、婦人參政權の力が餘まり大したものでないと云ふことを悟つたのである。

其の運動員は又、大都市に於ける、波蘭人の住んでゐる區域、伊太利人の區域、猶太人の區域と云ふやうに運動して歩いた。そして、それ等の外國人に親しく接近したことによつて、先づ、何よりも其等の外國人を米國化する事業の重大であること知つた。米國に移住した男女の勞働を利用することの代りに（そうするのが普通になつてゐるが）彼等を米國化することの急務を悟つた。そして、外國人を米國化するには先づ米國式の生活法を修養する餘裕を持ち得るだけの賃金を仕拂はねばならぬことをも其の運動員は知つたのである。

田舍を運動して歩いた運動員は、以前は全く無頓着でゐた田舍の婦人に多大の同情と理解とを持つようになつた。農家の婦人も亦實に憐れな狀態に置かれてゐるのである。或る一人の婦人は朝四時に

起きて彼女のたつた二本の手で六人の子供と四人の雇人と十頭の牛と、それから、七十五羽の鷄を養はなければならなかつた。こう云ふ婦人が絶望に陷るのも無理のない處であると運動員達は思つたのである。

南方に派遣された運動員も亦、黑人に對する米國人の不公平と殘酷な態度を見て、此處にも重大なる國民的問題があることを知つた。其の運動員は『白婦人のために參政權を主張するのはよろしいが、黑婦人を除外しないならば、ためになるまい。』と云ふやうなことを聞かされて來た。もし、其の運動員がもう少し永く其處に止まつてゐたならば『私刑』ですらも見せられたかも知れない。故に、皮膚の色が黑いために同じ米國人でありながら政權を抗まれるやうなものがデモクラシーであるならば、其のデモクラシーの理由の下に婦人が參政權を要求することは一ツの道化芝居であると云ふことを、婦人參政權運動者は認めなければならなかつたのである。

いづれにしろ、今日迄、婦人參政權運動のために努力してゐる婦人運動者等は今後は、此の運動よりも、もつと、潤のある社會改良事業の方に其の精力を用ゆるようになるであろう。殊に、腕の確かな、組織に熟練のある、そして、政治的智識を豐かに持つた靑年婦人參政權運動者は經濟上の運動の方にとび込んで行くに相違ない、既に婦人に參政權のある洲に於ては皆そうであつた。若い婦人運動者の大抵は生れながらに叛逆的である。故に彼女等が參政權を得た多くの婦人を引き廻して彼女等の勢力を振り廻すならば其の力は侮るべからざるものとなるであらう。

社會主義に附て金井様へ

金井津根吉様から次のやうな御手紙を頂きました。

拾月號の「婦人と新社會」を拜見致しまして非常に得るところが御座いました。心より感謝致します。

さて、本能の跋扈から本能の征服へ、米國婦人の生活と婦人参政權と云ふ論文は多分貴女様の御執筆におなりになつたものであると存じますが、其の御文章を拜見して居るうちに二三、教養のない、無學な私には理解出來ない個所が御座いますので。御多忙にもかゝわらず、御示教を御願ひ申出でた次第で御座います。幾重にも失禮をおゆるし下さいまし。

其の一

本能の跋扈から本能の征服へのうち。御說に依れば、今日の有産階級の祖先は、非常に勤勉な精力家。であつたとの事で御座いますが、非常に勤勉な精力家と云ふのは、どんな形に於て、勤勉な精力家でありませうか。

他を害して子孫のために今日の地盤を造る事に努力したなどをも勤勉で、然うした人をも精力家と言ふのでありませうか。

他を害せず。人道的な行爲で。子孫の爲めに美田を買ふた人などを稱して勤勉な精力家と云ふのでありませうか。

或は兩者をふくんで、すべてを勤勉な精力家と言ふのでありませうか。御示教を願ひます。

其の二

今日の大多數の、無産階級の祖先は怠けて居たり或ひは又、勤勉に働いて居た人の上前をとつてゐた所謂寄生蟲であつたのです。と言ふ御說でありますが。之

には確實なる史的論據が御座いますのでせうか。

私は物の本によつて。例へばマルクスの資本論など勤勉に働いて居た人の上前をとつて居たのは、現在の資本家であり、過去の資本家であるとばかり思つて居たので、一寸不思議に思ひました。

併せて、其の史的論據を記載して居る書物がありましたなら、御教え下さらば幸甚の至りで御座います。尙、此處で伺ふのは失禮で御座いますが貴女様は、資本主義の經濟制度を是認致しますですか。否認致しますですか。

其の三

貴女様は、有產階級を寄生蟲視することは當を得て居ないと、おつしやりますが、現在の有產階級の祖先が勤勉で精力家（貴女の所謂）であつたが故に寄生蟲視するのは當を得て居ないのでありますか。その條を拜見しますと、然う言ふ風に解せられる様な氣が致します。

其の四

四章におきまして、貴女様は、眞の文明の出發點がある、と言ふのは、愛と同情を基礎とした智力を活躍させる建設的方面に行く人による、と言ふ様に、御說きで御座いますが。

眞の文明の出立點は、建設的方面に行く人にばかりによらればならないもので御座いませうか。

貴女様は、其の點を特に高調してゐらつしやる様で御座いますが。其の說でよろしいものでせうか。

私は、破壞的方面に行く人も、前者と同様に眞の文明の出立點となる様な氣がしてなりません。御示敎を願ひます。

其の五

今日の改造論者、則ち、破壞論者と貴女様はおつしやつて居ますが。然う容易に斷言してよいでせうか。容易に斷言してよいのならば、其の例證を伺ひたいもので御座います。

其の六

破すに易く造るに困難であると、貴女様はカントの例をあげて、御說きで御座いますが。それは一個の常識的見解ではないでせうか。

世には破すに困難なるものが多々あると愚考致します。例へば、今日の社會主義者は資本家制度を破る事に努力致して居ります。

然るに、容易に破る事が出來ないで、苦しんで居る樣に見うけ致します。つまりこんなことは破るに困難と言ふ譯になりますまいか。

其の七

米國婦人の生括と婦人參政權と言ふ論文のうち。勞資問題を引き起す。最大原因は婦人の奢りたいと言ふ慾望であると貴女樣は斷言してゐらつしやる樣に、見うけますが。此の點は如何で御座いませうか。他に原因となるものはないでせうか。私はその御説に服する事が出來ません。何故かと、おつしやるなら。――本日の書面の主旨は御示教を願ふのでありまして、私の考へを申述べるわけには參りませんが。今月の、我等と言ふ雜誌の宮の神化と言ふ長谷川先生の論文などを拜見しますと。貴女樣の御説は頗る常識的な。社會主義と言ふものをすら余り御存じない人の説としか、私にはひゞいて參りません。

以上の御質問に對して御答へ致します。

其の一。と其の二。に對する御答へは本號の『新マルサス主義を否定す』の中からとつて頂きますが、マルクスの資本論に附いて一言申上げなければならないと思ひます。勤勉に働いて居た人の上前をとつてゐたのは現在の資本家であり、過去の資本家であると云ふのは、マルクスが、唯、社會の一局面を抽象的に云ひ現したものであります。ですから、其の一局面計りを見つめてゐないで他を振り返つて見るならば、其處に又新らたな局面が展開されてあります。其の三に對するお答へも矢張り本號の『新マルサス主義を否定す』の中からとつて頂きませう。

其の四。に對して申上げますが、文明、或ひは、進歩とは建設することだと私は信じて居ります。そして、建設するに付いて邪魔なものは破壞して取り除けて行く必要がありますが、併し、其の破壞は建設するに付いての破壞であつて矢張り建設のうちの一部であるように私は考へたいと思ひますが、あなたの仰有る破壞も矢張り 此の意味で おありになるのではないでせう

か？　そして、私が破壞的方面に行く人と云ふのは建設の精算もなしに、又、あつても、到底、實行不可能な空想を基礎としてゐる人を云ふので御座います。

其の五。改造論者、則ち、破壞論者と申ましたのは所謂革命家を差して云つたので御座います。そして、革命家は重もに破壞を事として居りますので、さう申ましたのです。

其の六。破すに易く造るに困難であると申ましても三歳の子に大きな建物が破せると云ふ風に易いと云ふ意味では御座いません。大きなものを破すのには矢張り大きな力が必要であることを私も認めて居ります。唯、同じ比例の力では破すに易く造るに困難であることを私は申ましたのです。たとへば、今の資本主義を破さうとすることはあなたの仰有る通り困難でありますが此の資本主義を建設するには猶更大きな力が必要であつたに相違ありません。

其の七。勞資問題を引き起す原因を群細に見て行きますならば、それは種々雜多でありませう。が、これを先づ經濟的から心理的に、心理的から倫理的に見て行きますならば奢りと云ふことに歸してしまいます。

終りに『社會主義と云ふものをすら余り御存じない人の說としか云々』と云ふ御言葉ですが、たとへば此處に一人の病人があるとします。其の病人を全快させるためには、おまじないと云ふ療治法もあります。自然療治法と云ふのもあります。科學的の療治法もあります。それと同じで社會主義は、社會の疾患を療すための多くの治療法のうちの、唯、一ツの治療法に過ぎないものであります。そして、私はそれ等のいくつもある治療法を皆ひつくるめて取り扱つてゐる社會學を信じ得ることを幸福に思つて居ります。

ついでゝすから、社會主義に對する私の態度を一寸簡單に此處に申述べて置きたいと思ひます。社會主義とは何かと云ふことに對する答へはなか〳〵難かしいものでありますが、併し、社會主義は資本家を攻擊するものであると云ふことだけは明瞭です。

一體、マルクスの描いた社會は抽象的の社會であつて英國の社會でもなし、獨逸の社會でもなし、佛蘭西の社會でもなし、又、米國の社會でもありません。勿論、マルクスが征據として引いてゐる事實は英國の事

貨も獨逸の事實も佛蘭西の事實も米國の事實もありませう。けれども、それ等の事實は、英國なら英國、獨逸なら獨逸の社會を背景として、斷片的でなく歷史的に取り扱つたものではありません。さうすることによつて始めて有意義な結論の前提になるのでありますが。ですから、マルクスの決論は實社會を前に置いての決論ではないように思ふのです。そして、其の實社會を前に置いてゐないと云ふ處から社會主義の誤謬が起つて來ると思ひます。

社會主義の議論の誤謬は容易に了解されますが、それが了解された時には社會主義は殆んどつまらないものになつてしまいます。なぜなら、社會主義のうちの一般人が承諾出來る點は社會主義特有の議論ではなく、社會主義に反對なものにも共通な主張であります。ですから、佛蘭西の經濟學グイヨゥは『此の頃の社會主義者は、社會主義に反對してゐる私の主張の殆んど全部をとつて自分等の議論にしてゐる。』と、彼の社會主義攻擊論のうちに云つてゐる位ひであります。

勞働が、勿論、ものゝ價値の泉源であります。けれども、勞働には筋肉の勞働と頭腦の勞働とがあります。云ひかへれば、ものに價値をつけるものは筋肉と頭腦との働きの結果であります。

歷史的に理論的に資本が掠奪であると云ふことは僞りであると私は信じます。尤も、社會運動の過度時代にはいつも掠奪はありました。奴隸賣買に於て、絕對君主國が個人の利益のために植民地に自治制を許した時に、叉、歐洲に於ける土地問題の解決の時に際しても其の掠奪はありました。けれども、現に存在してゐる有效な資本の全部が剩餘價値から成り立つてゐる資產の增大したものではありません。資本の自然科學的の歷史がそれを證明してゐます。ですから、今日の資本家は社會主義が明らかに云つてゐるようにして資產を造つた者計りではないと信じます。今の資本家も、或ひは、今の資本家の先代も一度は貧乏であつたに相違ありません。つまり、今日の資本を造つた人は頭腦に或ひは手に或る能力を持つてゐた人に相違ありません。彼等も普通の賃銀をとつてゐた人に相違ありません。そして、彼等の富を得た始まりは克己の結果の貯

蓄であつたに相違ありません。そして、其の富の増大は彼等の企業、彼等の聰明、及び、彼等の經營の正しかつたことの報酬であつたと見ることが出來ます。そして、これは正當な過程であります。併し、中には不正直に富を得たものもあるには相違ありません。併しさう云ふものがあるからと云つて正當な過程を踏んで富を得たものをも攻撃することは正しくありません。其の上に、もし、自由交換が今日の經濟制度の基礎だとするならば、克己して得た品物を借して其處からインテレストを取つたからとて其れを不正と云ふことは出來ないと思ひます。貨幣は信用と同じように品物であると云へます。ですから、より多くの利益を得るために資本を借りるならば、そして、それに對してインテレストを拂ふならばそれは資本を造り得た人の能力に對する賃銀でありませう。

さう云ふ風に資本と勞働を見るならば資本家と云ひ勞働者と云ふはつきりした區別はなくなります。一ツのはつきりしたプロレテリアットと稱するものもないことになります。其の證據には、ボルシエビズムを多數黨と云つてゐるのでありますが、そして、その多數黨が今日の露西亞を支配すると云つてゐるのでありますが、併し、其の實、露西亞のボルシエビズムは、所謂少數黨であります。少數黨が大露西亞を支配してゐるのであります。ですから、露西亞の過激派は政治に於けるマイナスの數量であります。そして、法律と秩序の一種の否定であります。

眞理に對し、人に對する義務、則ち、道德或ひは法律上の批准によつて各人が制裁されるのでなければ永久的な秩序ある社會は成立しません。けれども、今の露國には其れが缺けてゐるのであります。大多數の名によつて實は少數が露國を支配してゐるのでありますから、彼等は彼等自身の主張を破つてゐるものであります。

最も進歩してゐると云ふマルクス主義は、先づ、露國に於て、實行され、又、今後も實行しようとしてゐます。社會主義が妥協を排して進んで行くならば、先づ、露國の狀態に到達することが必然でありませう。露國のソビエット政府は所謂プロレテリアットの政治

委しく云へばプロレテリアットの少數の政府です。そして、此の政府の下に滿足して生存できる人間は餘程野蠻的な人間であると思ひます。なぜなら、そう云ふ社會に生存するには衣食住のために計り常にたゝかつて居なければなりません。

要するに今日の露西亞が社會主義アナーキーに與へた最も重用なものはボルシエビズムと云ふ名によつて知られてゐる混沌たる專制政治です。そして、此の專制政治はプロレテリアットと稱する一種の少數黨の主張です。彼等が世界に發表する主張は何であれ、プログラムが何であれ、彼等の實行はあらゆる殘酷な手段を用ひても彼等に反對するものを撲滅しようとすることであります。そして、彼等の主張は次の七ツになります。（一）階級爭鬪。（二）土地國有と私有財産の廢止。（三）物質的幸福に必要なものゝ外の一切の產業は廢して、勞働時間を三四時間にすること。（四）國際間の經濟上の一切の境を撤廢すること。（五）武裝を解くこと。（六）プロレテリアットの政府樹立。（七）今日のデモクラシー（プロレテリアット）を全然排して、多數であれ少數であれ第四階級が國家の最上權を握ること。これがマルキシズムの當然到着すべき點であります。現に彼等がさう云つて居るのであります。

私は社會主義を深く研究しては居りませんが、けれども、先輩の社會主義に對する贊否の議論を比較して見るとこれだけの決論が引けるのであります。で、私は社會主義の主張のうちには共鳴する點を持つてゐながら、併し遺憾ながら、これを唯一の社會改造術と見る事が出來ないのであります。私は出來るだけ公平に彼等の主張と實行とを合せて見て行かうと思つてゐます。

一寸御返事を書くつもりで思はず長くなりました。けれども、社會主義に對する私の氣持ちはまだ書き足りませんが、先づ、此の位にして置きます。いづれにしろ、御手紙によつて考へさせて頂いたことを感謝致します。どうぞ、又、御書面を下さいますことを希望致します。ついでながら申上げて置きますが此の誌上のものは殆んど皆私の筆になるもので御座いますから、私のでないものにだけ署名をして置きます。署名のないものは皆私のものだと思し召し下さいませ。

原田琴子さんのこと

本誌を出すことに決心致しました時、私はすぐ原田琴子さんに毎號書いて頂かうと思ひました。私のコツ〱した文章でいゝ加減皆さんの肩が凝つた時分に琴子さんの柔い美しい文章はきつと皆さんの凝つた肩をほごして下さると思ひましたから。

一昨年の暮に琴子さんが御結婚なさつたことを御存じない方は、齋賀琴子さんでは御存じでも原田琴子さんでは御存じありませんから、原田琴子さんとは私が雜誌『青鞜』に執筆してゐた時分に矢張り齋賀琴子と云ふ名で書いておゐでになつた方だと云ふことを一度此の誌上で御紹介しよう〱と創刊號以來私は思つてゐたので御座いました。

世の中には美しいものが少なくはありませんが、中にも少しの僞りもない心、思ふこと云ふこと行うことが全く一致してゐること程美しいものはないと私は考へて居りますが、本當に琴子さんは其の美しい心の持主です。

濁つた空氣で滿ちてゐる此の地上にも處々にさう云ふ人間が存在してゐると云ふことを知るだけでも私共の心は潤され、此の世界が懷しいものになりますのに、さう云ふ人を友とすることが出來た私は幸福者だと思つてゐます。私は一體、ガサツで、(育ちが育ちだからでありませうが)樂天家で、ともすると上滑りがしさうで、常にそれを危なつかしく思つて居るものでありますが、『オツと危ない』と思ふたんびに私はいつも心の目の前へ琴子さんをひつぱり出して來て、水晶のやうに澄むだ靜かな琴子さんの心の鏡へ自分のガサツな上ツ調子な心の姿をうつして見ます。そして、ゆがみ

そうになつた處を直したり、上滑りがしそうな處を落ち付かせたりしてゐます。

私が琴子さんと懇意になりましてからもう十年にもなります。其の間には琴子さんの御身の上に幾多の曲折がありましたが、其の人生に於ける重大事に遭遇なさつた場合にでも琴子さんの水晶のやうなお心は少しも曇りまんでした。本當に此の方の純なまつすぐなお心は十年一日の如くでありました。優しくて柔くて本當に女らしいと同時に不屈な其の精神を私は尊敬せずには居られません。『弱き者よ、汝の名は女なり。』と云ふ言葉は誰が造つたか？　琴子さんの精神を見て早く其の言葉を撤回せよと私はどなりたくなります。

美しい文章を書く人は澤山あります。巧みな議論をする人もあります。けれども、其の文章、其の議論が眞心からほとばしり出たものでもなく、又、實行の伴つたものでもなく、唯、一片の技巧である場合が少なくありません。そして、それは丁度無效な手形のやうなものであります。通用しなくてもいゝ手形ならば、一文無しの貧乏人でも、十萬圓、百萬圓、勝手な金額を書くことが出來ます。けれども、通用しなければ何にもなりません。通用が出來て始めて手形には價値があるのであります。それと同じように文章も、自分の生活になつて働いてゐるものゝ記錄であつて始めて價値あるものであります。そして、琴子さんの文章は徹頭徹尾琴子さん自身の生活の記錄であります。私はさう信じるのでなくそれを知つてゐるのであります。

技巧で仕上げる造花は、いつも同じ大きさ同じ色の花が出來ます。けれども、自然に咲く花は時には大きく時には小さく、又は、色の褪せてゐる場合もあります。けれども、其の天然の薫りに變りはありません。そして、私は、其の天然の花によつて此の小雜誌が飾られることを密かに誇りに思つて居ります。

■此の雜誌の新聞廣告は毎月二ッか三ッの新聞にしか出しません。從つて廣く皆さんのお目には廣告は屆かないと思ひます。けれども休刊するようなことは決して致しませんから新聞紙上に廣告を御らんにならなくても、もう止めたかなどとお思ひ下さいませんように御願ひ致します。

秋風をきゝつゝ

原田琴子

叔母さん、また秋がまいりました、風の音色の寂しい秋が。叔母さんとお別れしましてからもう丁度三度目の秋になります。この三年の間私は殆ど一日として叔母さんを想ひ出さぬ日はなかつたと申しても過言では御座いません。叔母さんが今日までこの世にゐらしつて私の良人や丈夫にくる／＼肥つた太郎を御覧におなりでしたならどんなにか喜んで下さつたらうにと毎日獨りで考へます、どういふ因縁からで御座いましたらう、叔母さんと私とはあんなにも仲がよう御座いました、私が故郷の家に居ました頃は一日の中うちに居る時間よりも叔母さんのお宅で過す時間の方が多い位でした。お晝もお夕飯もお宅で戴くことが珍らしくありませんでした。あのお茶の間で叔母さんのおしごとをなさる傍へ坐つて何やかやお話したことがほんとに懐しう御座います。今では私はめつたにお宅へあがりません、それは今の叔母さんもよい方で快よく迎へて下さいますけれどさう繁くお邪魔をするのはわるいやうに思はれます、ちやほやして下されば下さるほどそれだけおつとめなさるのだらうと思つてお氣の毒でなりません。それに久子やはま子にしましても私なぞの顔を見ますれば自然叔母さん――なくなつたお母さんの事を想ひ出すやうなことに

なろだらうとも恩ひましてつひ御遠慮致すので御座います。ですが叔母さん御安心下さい、今の叔母さんはお優しい方でそして働き者でゐらつしやるのですから子供達はほんとに幸福に生ひ立つて居ります。早いものでたか子も今年から學校へあがりました。あんな弱い子でしたがこの頃は赫ら顔の丈夫な子になりました。お宅でも私の家でも分家――店の方でも皆丈夫で仲よく暮して居ります――と申上げたいのですが否え表面上はそれに違ひ御座いませんのですが內輪へ入つて見ますとまたいろんなゴタ／＼が御座います「何て下らないだらうねえ」と叔母さんなら一口に仰云つておしまひになるやうな小さな日々の出來事が。

叔母さん、私の父にしても母にしても其外分家の叔父叔母にしましても皆好い人揃ひなのですのにそれなのにどうしてあゝお互ひに惡口を云ひ合ふのでせうねえ、父は話の次手には屹度『Tがあんな奴は駄目だ』とたつた一人の弟に當る叔父の事を申します、祖母の前でそれは憎さげに申します。祖母としてはそれを聞くのがまた非常に辛さうなのですが。叔母さんがよく御心配になりましたT叔父のお酒はまだ止みません、時々飲み過しては寢みます、それを父は申すので御座います、年をとりました祖母は何しろ末つ子のT叔父の事ですから困る／＼と口では申します やうなもの丶人に左樣云はれては不快(いや)な氣がするので御座いませう、「何だつてあれは月足らずで生れてひよはかつたものだから』と暗に庇ふやうな事を言ひます、それがまた父の氣に入りませんのです。何しろこの三年の間にS一族の樣子も大分變つてまいりまし

た。家を二つに分けて不動産を父と母にその一部を祖母にT叔父に店を譲るといふ改革はあの當時には最も適當なものでありましたらうけれど父の神經病がすつかり回復しました今日では何かの葛藤のもとになりがちでございます、『俺が丈夫ならTになぞ店を讓るのぢやなかつた、お祖母さんにだつて何も分ける必要はないのだ、財産は皆相續人につくのが當然なのぢやないか』と父はよく申します、もとより父は何も慾張つて左樣云ふわけではありません、父は昔の家族制度をまつすぐに信じて居るので御座います。それに叔母さんもよく御存知の通り父はなんでも自分が先き立ちになつて幅をきかしたい性質なのですのに今では一年間の小作米や公債の利子なぞのきまつた收入の外に入るものがありません、それに引かへて分家のT叔父の方では盛に商賣をしてはでに暮して居るのですからなほの事左樣感じるので御座いませう、『店の方では大變もうかるさうだ』と云つては母も穩かならぬやうな顏付を致します、自分が家長で澤山財産を持つて、兄弟や子供等を扶養してやるのだと始終威張つて居たい父にとつてはあまりいゝ時態ではないのですから――自然面白くない感情がこだはつてくるものと見えます。T叔父の方ではまた父が何につけても本家々々と本家を笠にきて威張るのを快くは思ひませんでせう。少しは外國語の書物も讀み、新らしい知識にも親んで居ますT叔父は。

叔母さん私はもう親達の家に居るのがつく／＼いやになりました、隣近所の噂、それもきまつてよくな

い噂を言ひ合ふ外になんの話もないのですもの、『お前の家位不愉快な家はない』とよく叔母さんはお言ひでしたつけね。それもまあ我慢すればよいのですがこの頃私の堪へられなくなりますのは何よりも兩親の將來を案じる思ひに脅せられるからで御座います。父は全くお先眞暗で御座います、人の好い父はおだてられゝば明日の事も考へないでうか〳〵人の口に乘ぜられるかもしれません、病氣が快くなりましてから父はある鐵道事業に關係致しました、そして澤山新らしい知人が出來ました、そしてずる〳〵とその人達の生活の中へ押し流されて行きました、いつの間にか父は一寸料理屋へよりましてもすぐに藝者の二三人も招んで騷がなければすまされぬやうになりました、食べるものにも着るものにも贅澤になりました、そして『どうだ、お祖父さんの時よりも交際が大きくなつたらう』と誇つて居るので御座います。物質上の慾望には際限がありません、あゝしてその時その時お金のあり次第に從らにつかひ果して不時の入用の場合に如何するのかと思ひます、けれど私なぞが何と申した處できゝいれる父では御座いません。母はまあ昔の通りであの我儘な利己的な氣風は變りません、如何いふものですか自分の**みうち**と**みうち**でない者との間を妙にへだてます、そのために私は私のHに對して氣の毒でなりません。先達もこんな事が御座いました。父が何かの時にHに浴衣を買つてやらうと申しました、なんでも二三度も申したので御座います、でふと着物の話が出ました折に私が『お父さんは左様仰云ひましたつけね――』と笑ひながら申しました。

しますされ母がすつかり顏色をかへまして、『いつそんな約束をした、私に默つてそんなことをしては不都合だ、私が死んだらとにかく生きてゐる以上は、かうして廿年も居る者にないしよでそんなことをしたらきかないから――』とそのけんまくと申しましたらひどいものでした、そしてすつかり怒つてしまつて叔母さんもよく御存じのあの苦い顏で默りこんで居ります。一體そんなに立腹するほどの事でせうか私は可笑しくも思ひましたけれど、つまる處その母の言葉はHに對する日頃の冷淡な氣持を表はしたものに過ぎませんのです。太郎を極端に可愛がります母はその太郎の父を妙にへだてるので御座います、Hが身體が惡いと申しても一向無頓着で居ります、母の心持では自分の娘を奪られたやうにでも思ふのかもしれません。

なんだかいやなお話ばかりおきかせするやうですみませんが久し振りで申上げます愚痴をどうかもう少しお聞き下さいまし、愚痴といへば叔母さんとお別れしましてから以來勝手な不平を洩すところがありませんでずいぶん私は困ります、寂しう御座います、心の底から打さけて話のできる親しい人が傍に居りませんと世の中はつまらないものに思はれます。叔母さんがゐらしつたなら――と私は嘆息せずに居られません。私の父も母も決して惡い人ではありませんけれど缺陷の多い人で御座います、私は物心つきましてから今日まで親子といふ關係の外に人間的な親しみを感じたことが御座いません、それでゐて親子といふ關係は一生涯たつことが出來ません。兩親の缺點は同時に私の缺點なのですから、親子である以上はどんな

に憎んでも憎み終せるものではないのですから、何んといふ寂しい人生なので御座いませう。親達の將來の事を考へますと私は心が寒くなるやうで御座います。

けれども叔母さん、いゝお話もまるでないわけでも御座いません、私達——Hさ私と太郎とは幸福に（もとより精神的にですが）暮して居ります、太郎はもうぢきお誕生になりますが生れてからこれといふ病氣も致しませず、ずん〳〵發育して居ります、この頃では「時計」といへば時計を指し「電氣」といへば電燈を指すやうになりました、そして「アヂヤ、アヂヤ」と大きな叫び聲をたてます。動物が非常に好きでした。犬や馬を見ますと手を振つてよろこびますしこわがりもせずに生きた猫をつかみます。肥えて居るせゐでせうが頸が短かくて色の白い眸の清しいお鼻の思ひきつて低い口もとに笑くぼのよる子で御座います。叔母さんがお出でしたならどんなに可愛がつて下さいましたらうと返らぬ事のみ思ひます。Hも太郎と遊ぶのを毎日のたのしみにして居ります。私達はどうか早く親達の家から出て私達だけの家庭を東京に造りたいと思ひますけれど適當な貸家のみつかりませんのに閉口致します。さん〳〵探しあぐれまして今日ではもうどんな家でも雨露を凌ぐに足りさへすればよいと思ひますのです けれど皆目無いのですものこまります。

私達は親達やこの土地の人達のやうに暮して行くことには堪へられません、從つて親達と一緒に暮して行くことも困難なわけで御座います、私達は内容に生きようとしますに反して親達は外形に生きようと致

します、私達は精神に生きやうとしますに反して親達は物質に生きやうと致します。この根本的な相異から日常生活の小さな事にまで一致を缺くやうな事になるので御座います、Hも私も別に華やかな大げさな暮しを致したいとは思ひません、さゝやかな靜かな生活の中に幸福を見出したいと望んで居ります、さゝやかな靜かなそして勤勉な生活！ 私達は澤山の知己を得ようと努力するよりもほんとうに親しい小數の友人と交はりたいと思ひます。

何だか理屈つぽいことを申上げましたわ、叔母さんが私達の家へお出でになつて、そして御一緒に芝居へでもまゐれましたならまあどんなによかつた事でせうに、叔母さんはどんなにお喜びなすつたでせうにねえ、私はHによく叔母さんのお噂を致します、今に太郎に向つても云ふやうになるかもしれません。

叔母さん、無花果や柿の熟れる季節になりました、うす白い穏かな日射しの中に木犀の匂ひが流れます、さくらもみぢがはら／＼と散つて風鈴の音がもの〻あはれを思はせます。晝間でもこほろぎが啼きしきります、何といふさわやかな秋の空氣で御座いませう、太郎をおんぶして田圃へ出ますと見渡す限り稲が黄色に實つて重い頭を垂れて居ます、路ばたには水色の野菊がすが／＼しい姿を現し、水の中には小さなはぜが活潑に泳ぐのが見えます。青く晴れ渡つた空のはるか彼方にたゞずまゐする白い雲を見て背中の太郎はアヂヤ、アヂヤを叫びます。夕方Hと三人で散歩に出ました時はほんとにこのまゝ遠く／＼田圃の果までも歩きつゞけたいと思ひ／＼するので御座います。叔母さんは何處の空にゐらつしやるので御座いませう？ 私の記憶の中にとだけではあんまり物足らないでは御座いませんか……。

編輯を終りて

私は毎日朝の八時頃から晩の八時頃迄、時とすると十時頃迄、机に向つて何かしら書いて居ります。そして其の大部分は印刷されて世間へ出て行くものであります。けれども、時々『オイ、お前はいゝ氣になつて居るのではないか？　お前の書いたものなどは多くの職人の手を煩して印刷して、そして、世間の人に讀んで頂く價値などあるものではないぞ。お前などの到底及ばない程、豐富な經驗、深い考へ、立派な人生觀を持つた方が外に澤山ある。そして、其の方達は社會に向つて何にも云つてゐない。一體お前は出すぎて居る！』と云ふ聲が心の片隅からきこへることがあります。

と云ふのは本當に深い人格、高い德を有つて輝いた方が私共の目の前にあるからです。周圍の者が其の方から受ける感化及び恩德は偉大なものであるには相違ないのですが、併し、社會に向つて廣くものを仰有らないもので、私などは時々自分のして居ることが間違つてゐるのではないかと考へさせられるのです。そして、又、私の夫などは『社會に名を出してワイ／＼騷いだり騷がれたりする者は人間のアブクで本當の人間の實は人の目にはかゝらない處にしつとりと落ち付いてゐるものだ。』などゝ云ふものですから。

そんな氣持ちで居るものですから未知の方からの、此の雜誌に付いて又私の考へ方に附いての一言半句の御批評にも私は多大の感謝を捧げて拜聽して居ります。追々お寒くなります。皆樣の御健勝を祈り上げます。

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	(送料共)	(送料共)

○誌代及郵税は前金の事○郵券代用は五厘切手にて一割増○廣告は御照會次第御相談いたします

大正九年十月二十三日印刷納本
大正九年十一月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎
東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

特製ノリス號



仕上	黒上等
フレーム	二十八吋と二十六吋
ホーク	ヱスケー形
前後リム	ニツケル
タイヤー	佛國製ミシランタイヤー 又はタカサゴタイヤー
チューブ	同
クランク	六吋半
ギヤ	四十四歯
チエン	ブラントン或はダイヤモンド
ブレーキ	特製上等
ハンドル	一文字或は上向式
握り	セルロイド或はランヤ巻
ペタル	舶來上等
泥除	厚口上等
カバン	スパナ油差付
サドル	九十號

定價金百三十圓也

（但シ注文ハ前金ノコト）

獨逸製

家庭用ミシン	蓋付	金七拾貳圓
	蓋ナシ	金六拾八圓
家庭用手ミシン	蓋付	金五拾貳圓
	蓋ナシ	金五拾圓
アイロン 一名火のし		金三圓五拾錢

賣捌所

東京神田區須田町二十五番地

（電話神田三二一四）

日本商店

